

BOAT RACER'S HOTLINE

佐藤悠

Yu SATO

成績は6月24日現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
4930	福井	石川	118	29	A2	5.81	4.63	217	13	1	1763万6000円	1億1223万9536円



「チルト2度の調整には自信があります!」 自信のスタイルを貫き悲願の初優勝を達成

○フライングが多い
父親のすすめでボートレーサーに。

父がボートレース好きで、小さい頃からよくレース場に連れて行ってもらいました。もちろん、三國へ。(今垣)光太郎さんのことはよく知っていましたよ。当時からスターでしたからね。その頃から自分もレーサーになりたいと思っていました。

——ここまでの選手生活を振り返って。
早いですよね。もうデビューして9年ですから。ただ、若い頃からフライングが多くて…。そこは反省しています。

——9年(18期)間でF2が4回。気持ちで行ってましたね。でも、ここ2期はフライングが0。結構我慢してきましたが、その分この2期はA2級をキープしている。スタートを我慢したことが、安定した成績にもつながっているといます。

——持ち味は全速スタートからのまくり。
最近スタートを控えているとはいえ、タイミングは早い方だと思います。スタートは養成所時から得意でした。すごいターンをするといいよりは、スタートを行ってまくるのが自分のスタイルだと思います。今垣光太郎選手も攻めて勝つスタイルですよ。それは自分がファンの時から伝わっていました。

○チルト2度へのこだわり
師匠は下出失選手。

デビューしてから下出さんに教わっています。当初から伸びを重視した調整で、僕自身、ずっとそのセッティングしかやっていません。ちなみに今、自信を持っているのがチルト2度の調整です。

——今年前半、常滑の話題を席巻したエース61号機。その力を引き出したのは佐藤悠選手のチルト2度でした。
1月に61号機に乗ったんですが、元々いいエンジンだったと思います。確かにチルト2度の調整をしてからは結構仕上がったと思いますね。

——その後のBBCでも中澤和志選手がその調整を引き継いでまくりを連発。
その後も多くの選手がその調整を引き継いでくれたみたいですね。ただ、自分自身は優勝戦のスタートで遅れてしまっ、勝てませんでした。

——それでもその4節後の江戸川でリベンジ。4コースからまくりを決めて悲願のデビュー初優勝を達成しました。
江戸川は常滑の時よりも出ていましたね。ひとつ内枠の妹尾忠幸選手もチルトを跳ねていましたけど、これなら間違いなく優勝できると思えるくらいエンジンは出ていました。20のスタートを決めたから勝てると思っていました。常滑の反省も生きましたね。江戸川でしっかり勝つことができて、自信になりました。

——チルト2度が合う場所は?

常滑はベスト3に入るくらい合う場だと思います。平和島、あとは瀬戸内のレース場ですね。児島や宮島など、海水の場は比較的配合向だと思います。ただ、淡水でも反応が来る時はありますよ。自分がチルト2度で乗っている時はやっぱり注目してほしいです。

○目標はA1級

——調整は柔軟な面も。

1コースから普通にも走るし、スロワーの場合は出足重視のセッティングにしています。何年もやっているの調整もすぐに対応できますよ。たとえレースの間隔が2レースしかなくても、プロペラはすぐに叩き変えることができます。そのあたりは師匠にしっかりと教えてもらっています。

——伸び型の調整に種類はある?

それは選手によって全然違うと思います。3度にする選手とか、エンジンで伸びを付ける選手とかもいるので。僕らのグループ(下出卓矢、高倉孝太、金田智博)も4人それぞれ、プロペラの形は少しずつ違いますからね。

——今後の目標。

今期はA1級の勝率を目指して、フライングは絶対切らないです。今はスタートの質にこだわっています。今年追加で近畿地区選手権を走ったんですけど、正規のあっせんG I戦を走りたいですね。そこから一步一步ステップアップしていきたいです。

BOAT RACER'S HOT LINE

松田真実 with 大須賀友

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5272	愛知	愛知	131	23	B1	3.60	2.18	11	0	0	626万5300円	1588万907円



師匠・大須賀友も驚く松田真実の“調整センス” 松田真実のこれまでとこれからを師弟で語る

○初勝利まで

松田選手のおじいさんは元ボートレーサーの爾見照雄さん(登番1473)。

松田 そうなんです。物心がついた頃には家でレースを見たり、スポーツ新聞でおじいちゃんの記事を読んだりしていました。その頃から自然と自分もボートレーサーになりたいと思っていました。

——苦労した養成所時代。

松田 リーグ戦の成績も良くなかったんですが、夏場に体調を崩してしまつてコンディションが整わなかったこともありですね。操縦面でも、技術的にも全然ダメでした。何とか卒業することができたという感じです。

——デビュー直後を振り返って。

松田 先輩と練習をしていても、「えっ……この選手と一緒にレースするの？」と思うくらい、力の差を感じていました。

——初勝利はデビューしてから1年9か月、昨年9月でした。

松田 初勝利した2節前くらいから、内のコースに入るようになってたんですが、最初はコースを取っても6着ばかりでした。同期の中で一番最後になって「私だけ水神祭ができていない。早くしなくちゃ」と焦りました。地元の常滑でようやく逃げ切ることができて、気持ち的にもだいぶ楽になりましたね。

○師匠から見る松田真実

——この初勝利以降、レースぶりが変わったイメージがあります。

(ここで師匠の大須賀選手も登場)

大須賀 実は初勝利する少し前から「いつでも勝てる！」という雰囲気がありましたよ。練習

でのターンが変わつてきていたの。模擬レースで内に入って、ミスをしなければ1着で出てこれていましたからね。外から勝つというタイプではないですけど。若い子は内から回るとキャビつてしまふことが多いんですけど、松田はそれがなかった。基本旋回：まあインから逃げる形が基本旋回になるんですけど、それがしつかりできていて、スピードもついてきていましたからね。

——そこから勝率がグンと上がり、ファンの注目度も上がっています。

松田 レースに対してチャレンジができるようになりましたね。今までは完走することが第一でしたけど、思い切つて攻めて行けるようになったかなと思います。ただ、差しのハンドルはまだまだです。

大須賀 世間の評価ほど、まだまだまくはないですよ(笑)。劇的に変化しているということはない。できることをちゃんとするように。ただ、むしろ上ぶれ……。できすぎ、かな。実際は3点くらいの力だと思えますよ。

——課題は？

大須賀 レースを見ていても「何で最初からそれをしないの……？」って思うことが良くあります。節の終盤ではいい走りができるのに、初日はさっぱりだったりします。

松田 どうしてもビビつてしまつて……初日は思い切つた走りができないことが多いですね。

大須賀 旋回に関しては波を越えるのが課題ですね。波のないところを回るのには良くなっているけど、間を割つたりすることはまだできていないですね。

松田 そこはまだ自分でも分かっているんですけどね。

——調整に関しては？

大須賀 そこはすごいですよ。センスを感じます。努力をしているし、レース場でも真面目に取り組んでいる。プロペラの調整も器用だと思えますよ。

松田 それは大須賀さんに教わったことをレース場でやっているだけです。

——今後の目標。

松田 今期は勝率4・50を取りたいし、準優勝戦にも乗りたいたいです。将来はもちろんA級に早く上がりたいです。そして大きな大会にも出たい。

大須賀 上に行つてもらわないといけないですね。そしてA級はもちろん、A1級になつてもらわないと。伸びる時はグンと伸びるところがある。ただ、水神祭をしてからここまで伸びていく感じはしていない。もちろん、まだまだ伸びしろはありますよ。

——近い将来、大須賀選手と一緒にGI東海地区選手権へ。

松田 一緒に走りたいですね。

大須賀 自分もそれが実現できるように頑張っていきます。